

営農指導員の ワンポイントアドバイス

営農指導員 永興ながむね
啓はじめ

今年の栽培計画を立てましょう

花栽培の作戦

農作業が落ち着いている今のうちに、直売所向けの栽培計画をじっくりと考えてみましょう。

主に野菜を栽培している人も、野菜作りの間作（作物の収穫前に、その条間に他の作物を栽培する方法）に花を導入して、土地の有効利用や収益の向上を考えてみましょう。

どんな花を栽培する？

栽培する花の種類を絞り込むためのヒントを紹介します。

①どこの人を対象とするか

地元の人を対象にするのか、都市部の人を対象にするのかで求める花の種類が変わります。

地元での消費が多いのは仏花用ですが、都市部の人には仏花用だけでなく、ホームユース用（家のテーブルなどを飾る）や知り合いへのお土産用、経営している店舗の飾りなどでの消費が多いようです。



▲ホームユース用（例）

仏花用の場合、短いものでもよく、落ち着いた印象の花（アスターなど）、ホームユース用などでは洋花系の花（バラ・カーネーションなど）が代表的といえます。

②だれに買ってもらうか

これまでの販売結果を分析すると、若い人や女性は明るくかわいいた花、高齢者や男性は渋くて落ち着いた花を購入しやすい傾向があるようです。

また、花の購入金額が大きい人は、50歳以上の人が多いようです。

③どんな使い方をしてもらうか

仏花用かホームユース用か、お土産用・プレゼント用かなど、使い方を絞る方が栽培方針が定まり、効率の良い花栽培ができます。

ちなみに、直売所では生け花材料としての需要はあまり多くありません。

花の種類・品種を決めましょう

方針が定まったら、カタログやインターネットを見ながら、具体的な花の種類・品種を決めましょう。一番迷うのがこの段階ですが、同時に楽しみでもあります。

本年は、今までとはちよつと変わった、作ったことがない花に挑戦してみたいかがでしょうか。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新たな魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



移住・定住に取り組む組織「西城みらいラボ」を立ち上げた伊藤 裕樹さん

西城町にUターンし、移住・定住に取り組む伊藤さんに話を聞きました。

西城町に戻るまで

西城町で生まれ育った私は、高校卒業後に京都の大学に進学し、庄原市を離れました。実家は西城町で碎石製造販売会社を経営しています。「いつかは帰ろうと思うけれど今ではない」と考え、大学卒業後はしばらく京都に残っていました。一度は西城にも戻りましたが、すぐ広島市の広告会社に入社し、その後、正社員を経て店長として勤務するようになりました。いざれ実家の会社に入るにしても、何の経験もないままでは帰れないと思っていたので、店長として経営を学ぶことができたのは、とても良い経験になったと思います。

書店には10年間勤務しましたが、6年前、同じく庄原市出身の妻と結婚したことを機に西城に戻ってきました。

子どもたちの未来のために

子どもが生まれ保育所に入ったとき、同級生が4人しかいないことにくずんとしました。昔と比べて人が少なくなつたな、とは思っていましたが、自分が子どもの頃は同級生が40人いたので、こんなに減っていたことにショックを受けました。この現状を何とかしたいと思い、2年前、自治振興区や庄原青年会議所の有志で西城町に移住・定住を促すための組織「西城みらいラボ」を立ち上げました。

走り始めたばかりの組織で、まだ手探り状態ですが、最近では、ユーザーに庄原でお試し移住体験してもらいたい、その様子を動画で投稿してもらうことで、庄原の魅力を発信しました。これから、西城町の移住・定住に対する意識をもっと高めたいと考えています。子どもたちが大人になつた時に、安心して暮らせる地域であつてほしいと願い、これからも活動を続けていきたいです。

問い合わせ

自治定住課定住推進係

☎0824・73・1257